

## U.S. Indicators

マクロ経済指標レポート

## 米国 自動車以外の消費は堅調さ持続 (05年10月小売売上高)

発表日: 05年11月15日(火)

~自動車販売での大型販促の打ち切りによって全体では小幅減少~

(No. UI - 145)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001: [seiji@dri.dai-ichi-life.co.jp](mailto:seiji@dri.dai-ichi-life.co.jp))

## 小売・飲食サービス売上高 (Retail and Food Services Sales)

	小売・飲食サービス売上高			耐久財関連 (*1)				非耐久財関連 (*2)		
			除く車		自動車	家具	家電		衣料品	ガソリン
04/10	+0.9	(+8.7)	+1.0	+0.0	+0.2	+0.8	0.3	+1.4	+1.9	+6.1
04/11	0.1	(+7.3)	+0.7	1.6	2.9	+0.2	+1.0	+0.8	0.8	+2.3
04/12	+1.3	(+8.9)	+0.4	+3.1	+4.2	+1.0	0.9	+0.0	0.1	1.4
05/01	+0.1	(+8.0)	+0.9	1.4	2.6	+0.2	+2.2	+1.0	+1.9	+1.1
05/02	+0.7	(+8.0)	+0.7	+0.4	+0.6	+0.7	+2.2	+0.7	+2.0	+1.7
05/03	+0.3	(+6.0)	+0.3	+0.8	+0.5	0.1	0.1	+0.2	2.1	+2.0
05/04	+1.8	(+9.1)	+1.6	+2.0	+2.5	+0.4	0.1	+1.6	+2.9	+2.5
05/05	0.3	(+6.3)	+0.0	0.9	1.5	0.1	+0.2	+0.0	0.8	+0.1
05/06	+1.9	(+9.8)	+1.0	+3.3	+4.8	+2.3	+0.1	+1.2	+1.0	+3.0
05/07	+1.7	(+10.3)	+0.5	+3.7	+5.7	+0.4	+0.5	+0.7	1.0	+4.3
05/08	1.8	(+8.2)	+1.2	7.2	11.7	+1.5	+0.4	+1.4	+0.7	+4.5
05/09	+0.3	(+6.6)	+1.4	1.6	3.6	+1.6	+1.1	+1.4	0.3	+5.1
05/10	0.1	(+5.7)	+0.9	1.6	3.6	+0.7	+0.4	+0.7	+3.1	0.8

(出所) 商務省 (Department of Commerce)

(注) 数字は季調済前月比。但し、( )内は前年同月比(未季調)。

\*1: 耐久財関連は、自動車・家具・家電・建材関連の売上の合計。

\*2: 非耐久財関連は、小売売上高の合計から、耐久財関連を除いたもの。

## 全体で前月比

0.1%、除く自動車  
は同+0.9%と市場  
予想を上回った

05年10月の小売・飲食サービス売上高は、自動車販売、ガソリン、その他小売の減少によって前月比 0.1%と2ヵ月ぶりに減少した。しかし、8、9月で合計+0.2%ポイント上方改定されたなかで、市場予想である同 0.7%を上回っていることから、予想よりも小売売上高は底堅く推移している。

変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は、前月比+0.9%と小幅減速した。しかし、8、9月で合計+0.5%ポイント上方改定されたもとの、市場予想の同+0.3%を大幅に上回った。また、価格変動の影響を受けやすいガソリン販売を除く小売・飲食サービス売上高(自動車・ガソリン販売を除く小売・飲食サービス売上高)は、前月比+1.1%(前年同月比+7.8%)と9月の同+0.8%から加速しており、小売売上高は堅調なペースで拡大していると判断される。

基調を示す3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率でも、変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は+13.2%(9月+10.4%)と一段と加速した。また、自動車・ガソリン販売を除く小売・飲食サービス売上高が10月に+8.2%と加速した。雇用、所得の拡大が持続するなか、エネルギー価格が下落したことで小売売上高が押し上げられた。加えて、ハリケーン被災者の納税時期の延長、ハリケーン被害地区の避難民への1世帯当たり2000ドルの支給等の被災者に対しても所得を下支えする政策がとられた。また、寄付金等による援助物資の購入、日用品、修理道具の購入増加も消費を下支えした。

**耐久財の減少が続き、非耐久財は拡大ペース鈍化**

財別の動向をみると、非耐久財関連ではスポーツ用品・書籍・趣味用品店や、気温が例年並みに低下したことにより季節物衣料販売が急増したため衣料品販売店が増加に転じた。飲食店が好調を維持する中、通信販売、ハリケーン襲来に伴い建設資材店、百貨店等一般小売、飲食料品店が加速した。一方で、薬局が減速した。さらに、ガソリンスタンドは価格の下落と需要の減退によって前月比 0.8%と10ヵ月ぶりに減少した。その他小売が減少に転じたことから、非耐久財は前月比+0.7% (同+1.4%)と減速した。

他方、耐久財販売では家具、家電販売の増加ペースが減速した。一方、自動車部門では、ビッグスリーによる一般購入者に対する社員割引の適用が終了したため自動車販売が前月比 3.6% (9月同 3.6%)と減少し、耐久財は同 1.6%と前月と同じ減少率となった。

**消費の基調は10月に加速**

GDPベースの個人消費算出に使われる小売・飲食サービス売上高(除く自動車・ガソリン・建材)は、10月に前月比+1.0%(9月同+0.7%)と加速した。7~9月期対比年率では+6.9%と7~9月期の前期比年率+5.3%から加速した。一方で、10月の自動車販売台数は季節調整済み年率1475万台と7~9月期の同1803万台から減少している。

**10~12月期は自動車販売の反動減により個人消費の減速が見込まれる**

11月入り後の個人消費も、マインドの改善やエネルギー価格の下落が続くなか底堅く推移している。小売売上高は11月1、2週平均で10月対比+1.0%と10月の前月比+0.4%から加速している。

今後、エネルギー価格の高止まりによるマインドの悪化にもかかわらず、雇用・所得の拡大、資産残高の増加が続くと予想されることから、個人消費の拡大基調はこれまでのペースが維持されるとみられる。さらに、ビッグスリーが11月初に約1000ドルのインセンティブ拡大を行ったことに加えて、11月14日には新しい大型販促を開始したことから自動車販売が持ち直すとみられる。ただし、四半期では10~12月期の自動車販売は、販促によって大きく押し上げられた7~9月期の反動で減少が避けられないことから、10~12月期の実質個人消費は前期比年率+1%台の伸びに鈍化すると予想される。

